

平成12年 / 2000

夏一号



「きれいな街づくりの心」忘れずに！
(クリーンアップふくい大作戦：気比の松原)

contents

一片のかけらが語る 古代人のロマン・・・	2~5
予算の執行状況・・・	6~7
街角スケッチ・・・	8~9
福井県青少年育成推進員さん決まる・・・	10
おしらせほか・・・	11~18

No.701
平成12年6月13日発行

舞崎遺跡発掘調査より



復元作業中の弥生土器（舞崎遺跡出土）

遺跡の年代を決め

ムラのつながりを示してくれる

土器は、古代人があらゆる生活の場面で最も多く作り、使用した道具でした。それらの土器は時代や地域によって形や紋様、作り方などにそれぞれ特徴が見られます。専門の技術職によって作られていた鉄器などとは違い、土器は身近にある粘土をこねて作るという作りやすさがあり、どこでも誰でも行うことのできた作業です。一家に一人は作れる人がいて、例えば、おじいちゃんのお父さんがお父さんが受け継ぎ、それを子どもがまねて作る、こんな作業が繰り返されてきた作業です。



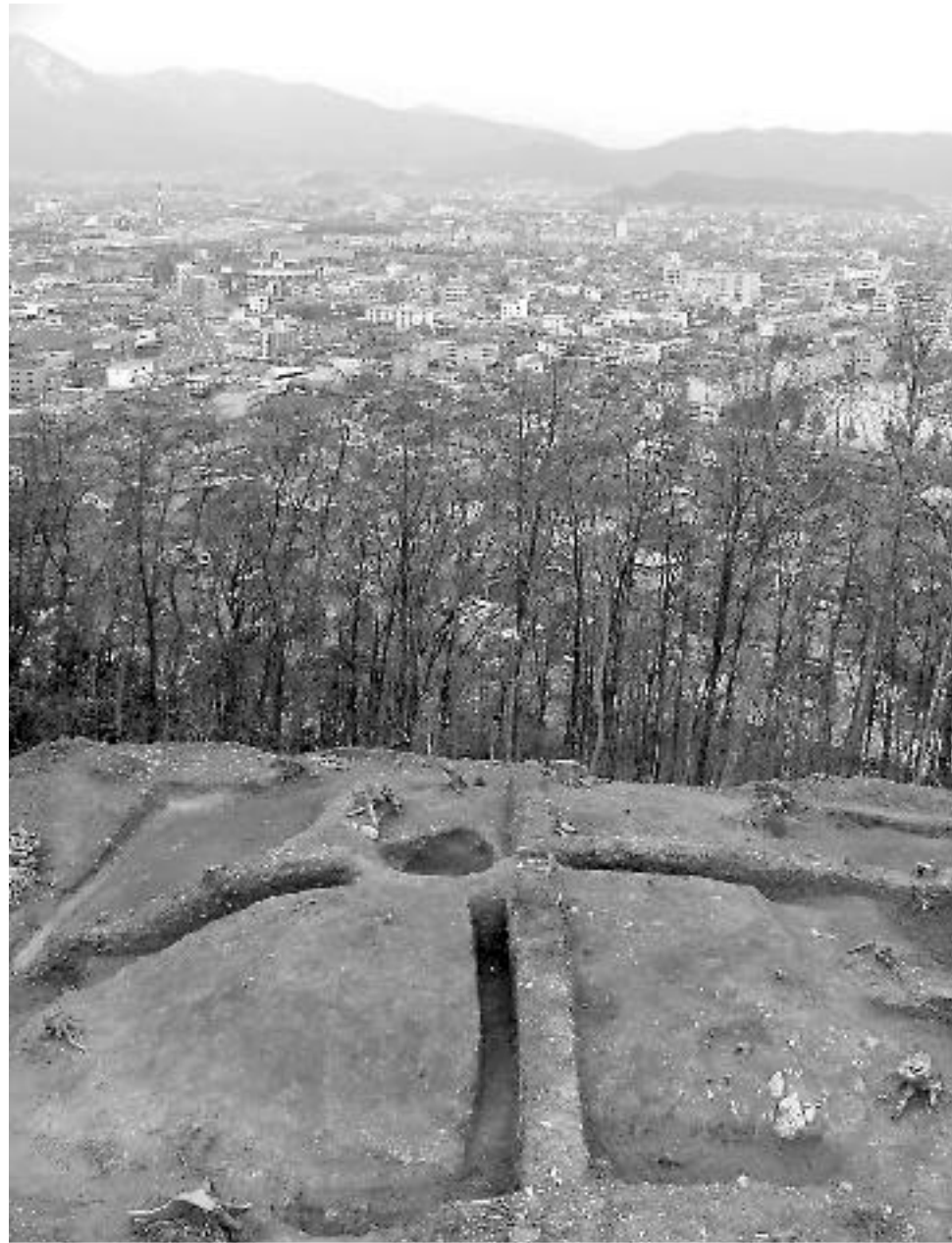
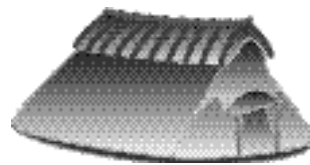
近江産の土器片が出土（受け口状口縁）

このように遺跡などから出土した土器は、その形や紋様の違い、粘土などを見比べることが、作られた場所や遺跡の年代を決定したり、文化の交流やムラ、クニのつながりを知ることの重要な手がかりとなります。



畿内産（生駒山中河内）の土器片が出土

また、大陸からいろいろな技術がもたらされ、つながりの深いムラどうしがクニを形成するようにしたことにより、弥生人の生活形態も変化し、それが土器の形にも現われてきます。このように遺跡などから出土した土器は、その形や紋様の違い、粘土などを見比べることが、作られた場所や遺跡の年代を決定したり、文化の交流やムラ、クニのつながりを知ることの重要な手がかりとなります。



舞崎遺跡発掘調査現場から西方を望む（2号墳と2号経塚）

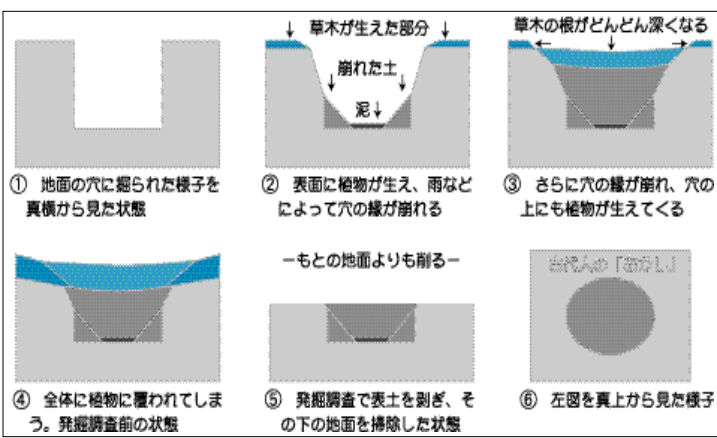
一片のかけらが語る
古代人の口マシ

このほど教育委員会が舞崎遺跡発掘調査の成果発表を行い、県内最古、規模では県内最大の高地性集落跡（弥生時代）が発見されたこと、さらには近江や畿内との関わりについての重要な手がかりを得たことなどが明らかにされました。一辺の土器片が語る「古代人の口マシ」。敦賀における古代史に新たな1ページが加えられた瞬間でした。今回の調査は、開発計画に伴う緊急発掘調査として、天筒山系南端にある通称・舞崎山（標高95m）で、昨年8月から舞崎古墳および舞崎遺跡の調査を行ったものです。舞崎古墳は、その存在が以前から知られており、昨年9月に調査を終了し、現地説明会を実施しました。舞崎遺跡については、調査が進むなか様々な出土遺物からいくつもの時代（弥生時代中期末～室町時代）にわたった「複合遺跡」であることが分かり、降雪で一時中断を余儀なくされましたが5月末を目処に調査を進め、その成果をこのほど発表しました。

名もなき人の「あかし」

舞崎遺跡発掘調査担当 学芸員 中野 拓郎

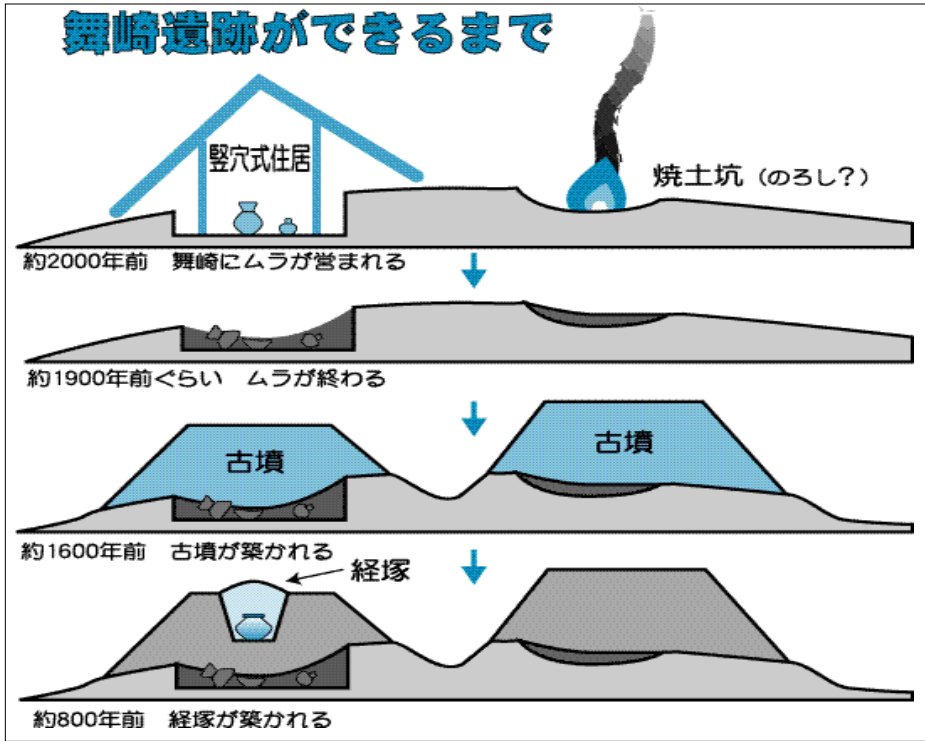
舞崎遺跡の調査によって、2,000年前の敦賀の様子や、当時の文化交流について知ることができました。戦争のためというよりは、見張りや通信のための高地性集落が見つかったことにより、敦賀という地域は、はるか昔から交通の要衝であったことがあらためて示されたのです。舞崎遺跡では、ほかに約1,400年前から500年間以上にわたって、断続的にならがの祭祀、お供え物がされていました。敦賀の人々の過去から現在へとつながる天筒山への「いのり」の想いがしのべられます。このように発掘調査によって、2,000年以上前のはるか昔に人間が行ってきたことを知ることができます。それはいかえれば、「地面に穴を掘る」などといったほんのささいなことでも、いったん自然に手を加えると2,000年以上たっても元には戻らないということになります。その一方で、今となってはどんな人か、性格はおろか名前すらもわからないのはるか昔の人でも、その人がいなければ今の場所に穴があることはないわけです。この穴は、その「名もなき人」が当時生きていたという「あかし」でもあるのです。



舞崎遺跡発掘調査より

舞崎遺跡発掘調査より

舞崎遺跡ができるまで



時代が移り変わること、そこに住む人達の生活形態も変化していく。あるときは住居として、そして、あるときは信仰の場として、この舞崎山は、人々に利用され続けました。

不便な山の頂上。しかし、営みがなされるためには何かそこに地の利が存在していたはず。それは、何といても周囲を一望できる見晴らしの良さだったのでしょう。

それぞれの時代の生活面が掘り出されるとき、時を経て古代人のロマンが甦ってきます。

弥生時代中期末～室町時代 複合遺跡だった

舞崎遺跡の調査を進める中、弥生時代の竪穴式住居跡や焼土坑など高地性集落跡、4基の古墳、平安時代の経塚、さらには室町時代の灯明皿などが発見され、複合遺跡であることが分かりました。

西は敦賀湾を望み、東は北陸道を見下ろす舞崎遺跡。情報の発信源として、また、信仰の場として、さらには天筒山城の見張り台として、2,000年も前から様々な役割を担ってきたところでした。

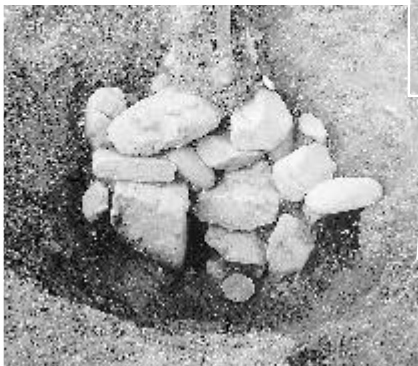
今回の調査を通して、私たちの祖先の営みや周りのつながりなどの一端が明らかにされたわけです。市内にはまだ多くの遺跡が点在します。今後の成果に期待しましょう。



列石を施した3号墳(古墳時代)



石斧(弥生時代中期)



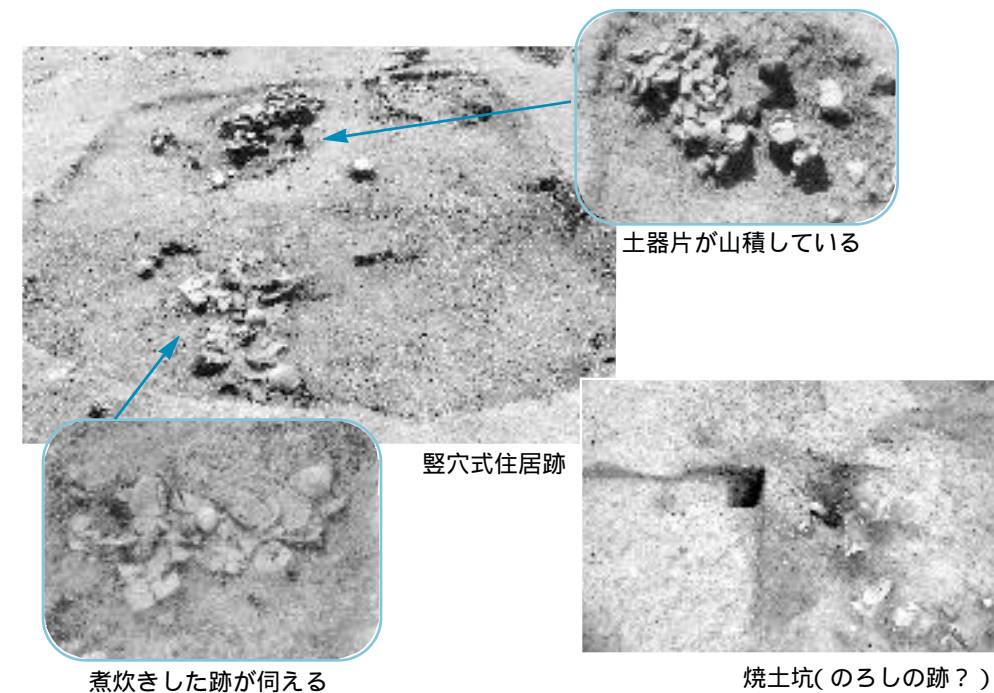
鏡が出土した1号経塚(平安時代)

写真中央付近の薄黒い土の層が弥生時代の地面。その弥生時代の遺跡の上に明らかに土を盛って古墳を築いた様子が伺える



舞崎遺跡発掘調査より

高地性集落跡に見る 畿内の北端？ つるが



今回の舞崎遺跡発掘調査一番の成果として挙げられるものは、なんとと言っても弥生時代中期末(およそ2,000年前)の高地性集落跡で、竪穴式住居跡(4~5棟)や焼土坑(火を焚いた穴)が確認され、県内最古、規模的には県内最大の遺跡でした。

高地性集落とは、弥生時代中期末から後期にかけて、生活しやすい平野ではなく、あえて不便な丘陵上や段丘上に営まれた集落のことです。

その形態には、1.見晴らしの良い丘陵、山頂に小規模なムラを作る、2.丘陵、段丘上に溝をめぐらせて大規模なムラを作る、の2タイプがあります。

舞崎遺跡は、1のタイプで、その機能も外敵からムラを守るとか、戦争の際の拠点というより、見張り、もしくは通信のための集落と考えられます。

そのことを裏付けるものとしては、遺跡周辺に防壁跡といった溝が見当たらないこと。そして、近江や畿内から運び込まれた土器などが数多く出土したことによって、琵琶湖の西岸に数キロおきに分布する高地性集落(見張りや通信の機能

(のろし)を持った集落)との関連が強くなったことが挙げられます。

さらに、住居跡の周辺に焼土坑(火を焚いた穴)が発見されたことで、この敦賀が「近江-日本海側ルート」を経由して、畿内の北端として様々な情報の発信源であった可能性が高まりました。

住居跡には、食べ物を煮炊きした跡や壊れた土器を捨てた跡がはつきり残っていて、それらの土器片から、およそ1000年間にわたって古代人が生活していたことも明らかになりました。

私たちの祖先は、見晴らしのいい舞崎山に住み、木の芽峠越えの北陸道にらみを利かせながら、大陸や日本海沿岸から敦賀湾に船荷が入ってきたことを「のろし」を揚げて、都に知らせていたのでしょうか？

畿内 都周辺をいい、大和・摂津・河内・和泉・山城の5か国のこと、五畿とも言う。(現在の奈良、大阪、京都)

近江 現在の滋賀県

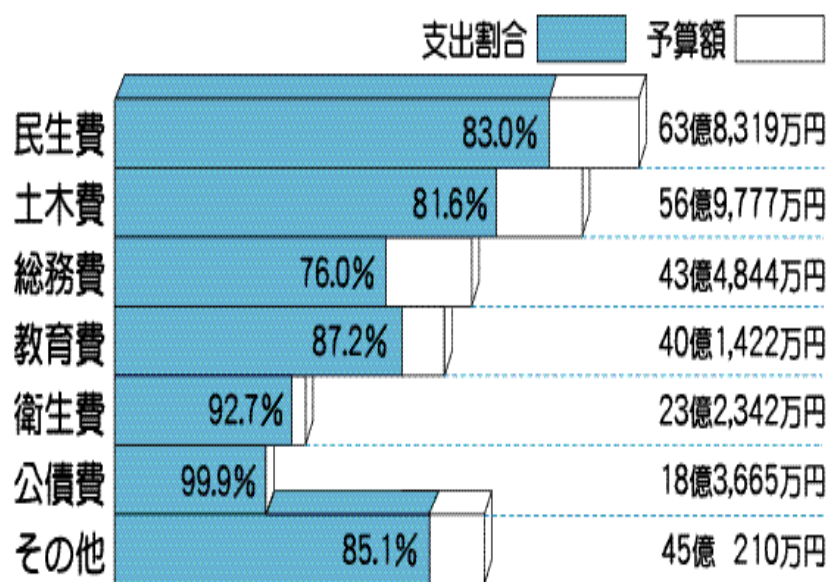
北陸道 官道・五畿七道の一つに数えられ、都に通ずる道として栄えた。(木の芽峠越えの道)



◆ 歳出（支出）

歳出は、民生費が最も多く、続いて土木費、総務費、教育費の順になっています。

予算額 291億 579万円
 支出済額 245億7,600万円（支出割合 84.4%）



◆ 費目の内容

- 民生費** お年寄りや障害者、子どもたちを支えました。
- 土木費** 道路や住宅、公園などを整備しました。
- 総務費** 防災やまちづくりなどを幅広く進めました。
- 教育費** 学校教育や生涯学習、文化・スポーツを振興しました。
- 衛生費** みなさんの健康を支え、環境美化を推進しました。
- 公債費** 市が借り入れたお金を返しました。

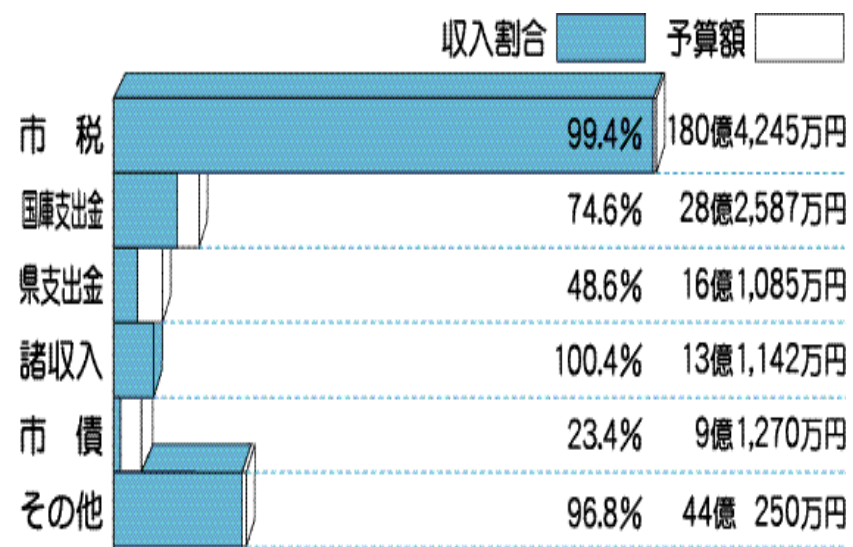


完成間近のきらめきスタジアム

◆ 歳入（収入）

歳入の約62%は、市税で支えられています。続いて、国庫支出金、県支出金、諸収入の順になっています。

予算額 291億 579万円
 収入済額 266億 975万円（収入割合 91.4%）



一般会計とは、市の中心になる会計で、その歳入や歳出もさまざまな分野にわたっています。

一般会計

市の財政は、市民のみなさんに納めていただいた市税や、国からの補助金などの収入で成り立ち、よりよい市民生活のために使われています。その歳入（収入）と歳出（支出）などの状況をお知らせします。歳入と歳出は、5月31日に締め切られますので、各会計とも未収、未払いを残しています。



会計名	予算額	収入済額	支出済額
港湾施設事業	1億1,117	1億1,184	1億1,081
都市計画土地区画整理事業	8,514	8,825	3,155
農業共済事業	8,315	6,233	4,497
温泉街造成管理	4,268	4,575	2,384
地方卸売市場	4,584	4,524	4,404
漁業集落環境整備事業	2,669	793	2,363
農業集落排水事業	5億2,186	1億 215	1億3,263
地域振興券交付事業	3億6,752	3億6,424	3億6,424

特別会計
 特別会計とは、特定の事業について設けられた会計で、事業ごとの予算になっています。

水道事業会計	給水人口	年間給水量	1日1人当り平均使用量
（平成12年3月31日現在）	62,982 (1,957)人	9,553,662 (9,186,670) m ³	41.6 (40.6) l

問合せ 総務部 財政課 ☎ 22-8104

平成11年度 財政事情の公表

予算の執行状況

（平成12年3月31日現在）

〈用語解説〉

- 市税** 個人や事業所にかかる税金で、市に納められるもの。
- 国庫支出金** 国からの負担金や補助金など。
- 県支出金** 県からの負担金や補助金など。
- 諸収入** 預金の利子や貸付金の元利収入など。
- 市債** 市が借り入れたお金。

市民一人当たりの	市税負担額
市税負担額	83,023円
市民税	42,821円
固定資産税	26,655円
たばこ税	7,453円
都市計画税	4,682円
その他	1,412円

図書館だより

おはなしと紙芝居の会

とき 7月15日(土) 14時~
ところ 市立図書館 幼児コーナー

朗読の勉強会

あなたも声を出して、身近な本を楽しく読んでみませんか?

とき 6月23日(金) 10時~12時
ところ 市立図書館 研修室
講師 舞台俳優 ^{ひとむらあけみ} 入村朱美 氏
内容 エッセイや小説などを朗読し、講師よりアドバイスしていただきます。

新着図書のご案内

平成12年4月、5月に入った図書の中から紹介します。

リンボウ先生の書物探偵帖
どんなときでも、なんとかなる
中国医師の娘が見た文革
福祉、癒しの仕事したい
ふたつの死からひとつの生命を
パリアフリーの家
少ないモノでゆたかに暮らす
彼女がくれたマウンド
義元謀殺 上、下
舞踏会へ向かう三人の農夫
滅びゆくアフリカの大自然
ねんりんピック'99福井
福井県のすぐれた自然
素龍本おくのほそ道
山の子里の子海辺の子

(一般書1377冊・児童書313冊)

なお、新着図書案内一覧表は、図書館・公民館等にあります。

7月の休館のお知らせ

毎週月曜日
13日(第3木曜日振替)
20日(海の日)

問合せ ☎22・1868

一戦一戦を大事に 5月23日

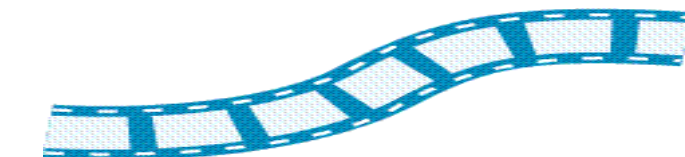


第15回全国選抜ゲートボール大会に「敦賀ひまわり」が、第22回東日本軟式野球大会に「敦賀ライガース」が、それぞれ福井県の代表として出場。壮行式では、敦賀ひまわりの宮本美智枝監督が「励ましの言葉を心の支えにがんばります。」と健闘を誓いました。



大きくなってね
5月24日

市内の保育園児と市老人クラブ、和幸園のお年寄りおよそ300人が、高野の健康農園で、さつまいも苗の植付けを行いました。園児たちはお年寄りから手ほどきを受けながら、「大きくなってね。」と秋のいも掘りを楽しみに、小さい手を土まみれにして懸命に頑張っていました。



6月の市民ギャラリー 日本画 <南涛会>

「^{ざん}残雪」「^{ふゆ}冬木立」 ^{なかむら}中村義三

6月1日(木) ~ 市役所市民ホール

7月の市民ギャラリー 書 <生蛙会>

「^{たなか}田中桂邑」 ^{いみ}生蛙会

まぶしい笑顔! 5月5日



五月晴れに恵まれた子どもの日、こどもの国で春まつりが行われ、多くの親子連れで賑わいました。工作体験の「ゆめいる工房」では七宝焼やお皿の絵付け、屋外ではミニ動物園やボニーの試乗など多彩な催し物が用意され、快晴の空と同様、子ども達の笑顔がまぶしい一日でした。

夢はJリーガー 5月13~14日



柏レイソルサッカースクールのコーチを招き、サッカー教室が行われました。参加した子ども達は、一流コーチ陣のユーモアを交えた指導で、のびのびと練習していました。この教室は、全国のトップレベルの技術を学び、敦賀市のスポーツ競技力の向上を目指すもので、毎年競技種目を変えて行われています。

アニョハセヨ!(こんにちは) ^{シン} 徳承です。
韓国東海市(伽味都市)から来ました。
これから6か月間、敦賀市のことを学び、また、いろいろな行事にも参加してみなさんとお友達になりたいと思います。
街で見かけたら、ぜひ声をかけてください。韓国のこともお教えします。みなさんとお話できることを楽しみにしています。



東海市役所総務課主任
辛 徳承さん

街角口 エスケッチ

心が和むひと時 5月14日



各流野立茶会が、今年は場所を西福寺に移して行われました。名勝の書院庭園を眺めながら、また、御影堂でいただくお茶に、訪れた人は至福のひと時を過しました。境内には琴や尺八、大正琴の音色が響き、優雅な雰囲気を一層盛り上げていました。

東海市から こんにちは!

敦賀-東海 職員相互派遣